

農福連携による共生社会創造事業

ー農業を器とした就労困難者の居場所と出番づくりー

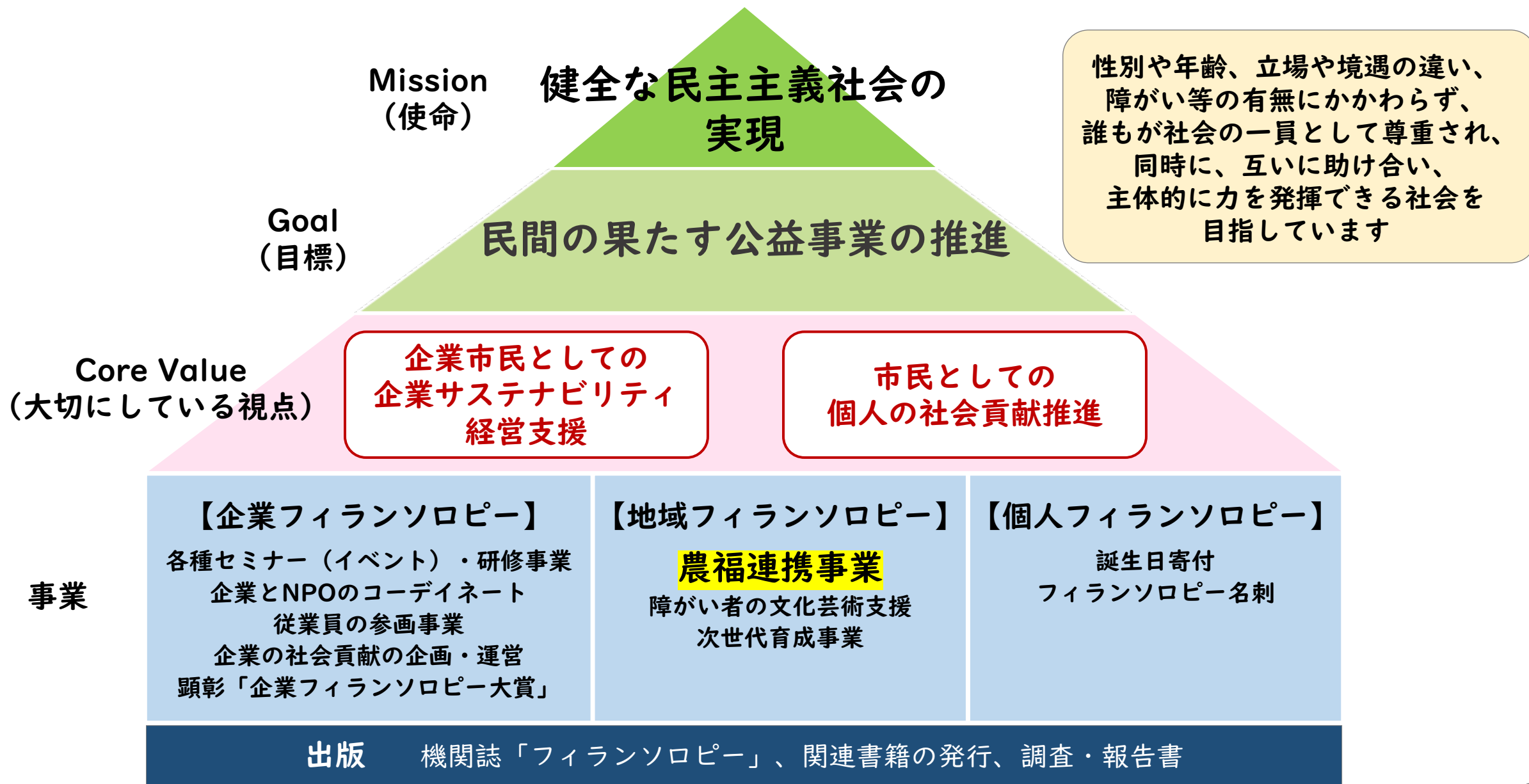
公益社団法人日本フィランソロピー協会 (JPA)



団体概要

■ 名称	公益社団法人日本フィランソロピー協会 （にほんふいらんそろピーきょうかい） 英語表記：Japan Philanthropic Association
■ 所在地	東京都千代田区大手町2丁目2番1号 新大手町ビル244区
■ 設立年月日	1963年（昭和38年）1月9日 2009年（平成21年）7月1日に 公益社団法人へ移行
■ 代表理事	理事長 高橋陽子
■ 社員	会員一覧 に掲載の「正会員」（定款第8条第2項）
■ 会員制度	正会員 : 本法人の目的に賛同して入会した法人 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律上の社員として社員総会での議決権を有します 賛助会員 : 本法人の事業を賛助するために入会した法人
■ 会員数	正会員19法人 賛助会員105法人 （2026年7月1日現在）

公益社団法人日本フィランソロピー協会（JPA）の使命と事業



休眠預金活用事業の概要（2023年度通常枠）

公益社団法人
日本フィランソロピー協会



株式会社農協観光



事業名： 農福連携による共生社会創造事業
～農業を器とした就労困難者の居場所と出番づくり～

事業期間： 2023年10月から2027年3月まで（助成期間：2024年4月から2027年2月まで）

対象： 全国を対象として、地域全体で農福連携の推進を目指す団体（以降、実行団体）

助成額： 助成総額1億8,000万円 ＋ 評価関連経費900万円

助成元： 一般財団法人日本民間公益活動連携機構（JANPIA）
（資金分配団体：
公益社団法人日本フィランソロピー協会と株式会社農協観光のコンソーシアム）

事業の目的・目標

農業に障がい者等の就労の機会をマッチングする
「農福連携」を地域で推進する仕組みづくり

複数の福祉団体と複数の農業者をつないで取り組みを面に！
作物をきちんと販売して対価を得られる農業に！



障がい者、ひきこもり・ニート、触法者等の
就労困難者が農業で活躍できる可能性を拡大

休眠預金を原資に8つの助成先（実行団体）と活動

8つの実行団体



社会福祉法人佛子園（石川県白山市）
能登の休耕地を活用した特産農産物
ブランド化プロジェクト
対象地域：石川県能登町

社会福祉法人月山福祉会（山形県鶴岡市）
山形県における農福連携による
共生社会創造事業
対象地域：山形県鶴岡市、三川町、庄内町



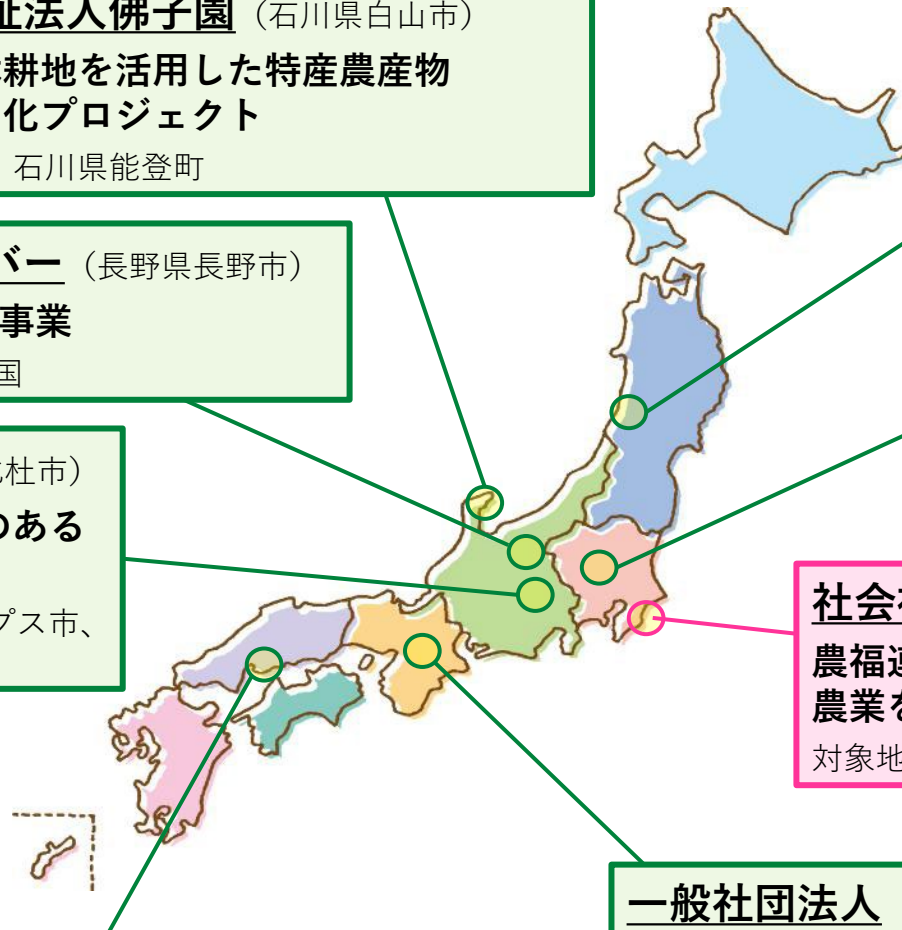
一般社団法人クロスオーバー（長野県長野市）
農福連携による共生社会創造事業
対象地域：長野県を中心とした全国

埼玉福興株式会社（埼玉県熊谷市）
農福連携による共生社会創造事業
対象地域：埼玉県北部と群馬県南部



特定非営利活動法人大志（山梨県北杜市）
農福連携による生産性向上と多様性のある
就労・自立支援事業
対象地域：山梨県北杜市、韮崎市、南アルプス市、
甲府市、甲斐市

社会福祉法人土穂会（千葉県いすみ市）
農福連携によりISUMIの就労困難者と
農業を元気に！
対象地域：千葉県いすみ市、勝浦市、御宿町、大多喜町



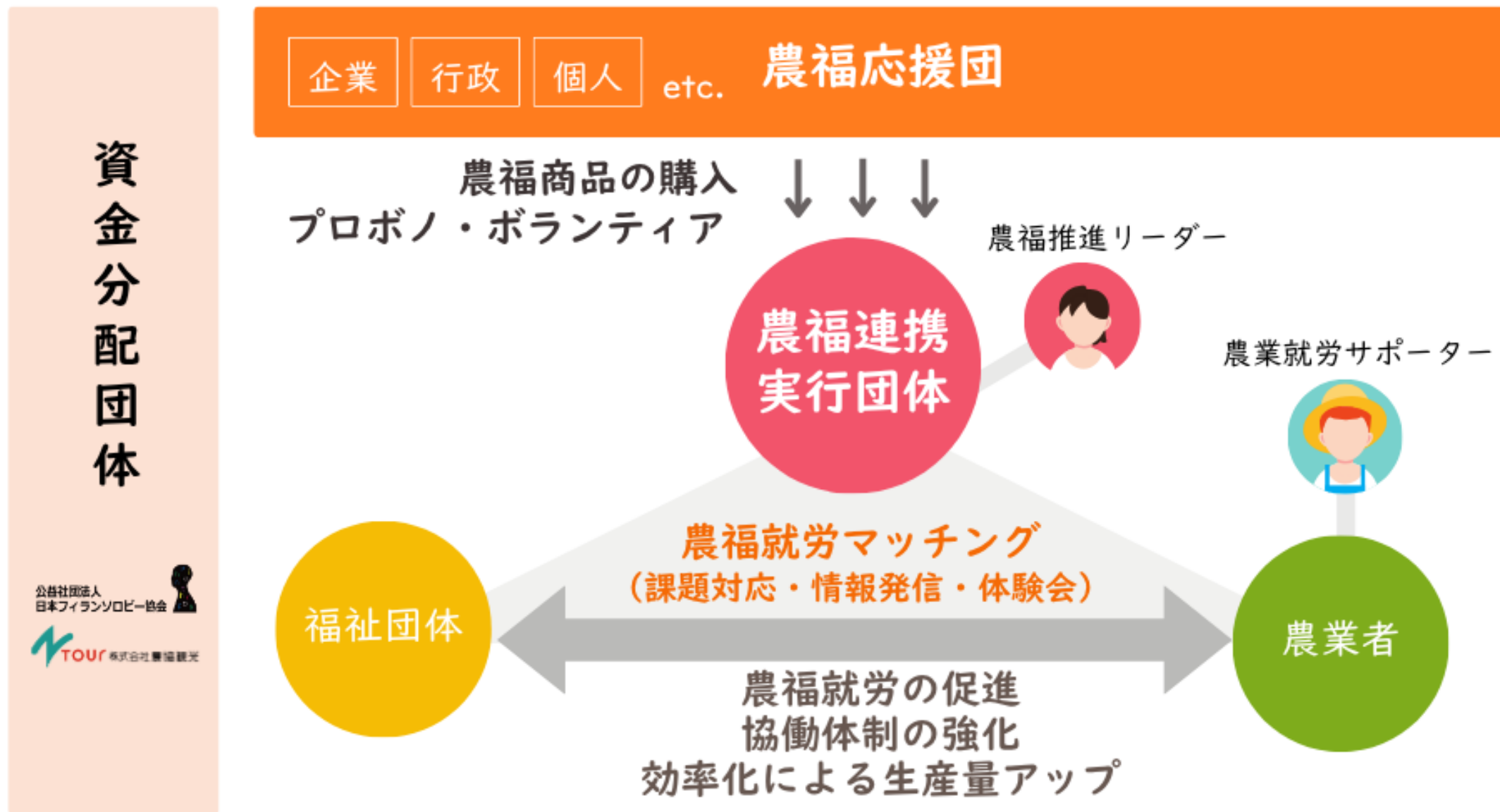
社会福祉法人宗越福祉会（広島県竹原市）
官民協働による農福コンソーシアムの組織化と就農を
起点としたインクルーシブなコミュニティづくり事業
対象地域：広島県竹原市、東広島市、三原市、尾道市、世羅町



**一般社団法人
SPSラボ若年認知症サポートセンターきずなや**
（奈良県奈良市）
地域共生型はたらくプラットフォーム事業
対象地域：奈良県奈良市・山添村を中心として奈良県と近隣県



「農福連携」を地域で推進する仕組みづくり



実行団体の取り組み

埼玉福興

カフェテリア
firmcafe clarice

人をつなぐ
場所づくり

土穂会

はじめての一步農場
(農業を通じた社会参加)



これまで相談も
できなかった人と
交流が生まれる





佛子園

大志

きずなや

共同作業場・共同加工場



集約することで
ノウハウを生かす

農福連携を
推進する
仕組みづくり

月山福祉会

クロスオーバー

農福マッチング

農家の困りごとに
福祉が応える



宗越福祉会

商品開発・販路開拓

売れるものを
生産する



資金分配団体としての伴走支援

事業推進の伴走支援

- ・ ロジックモデル、事業評価の伴走支援
- ⇒ 事業整理、組織基盤強化

研修・機会提供

- ・ 農福推進リーダー研修、事例視察など
- ⇒ 実行団体同士のネットワークづくり
他地域のノウハウ共有

出口支援（生産性向上・販路開拓）

- ・ 専門家によるアドバイス
 - ・ 商品開発・販路開拓支援
 - ・ 企業との接点提供
- ⇒ 4年目以降の自走に向けた活動支援



実行団体同士の進捗・課題共有会



事例視察

「知らないこと」に
共感は生まれない

課題＝取り組みを
知っていただくことが
まず必要



アグリフードEXPOへの共同出展

東京マッチング会に向けた伴走支援

企業連携ニーズの確認（ロジックモデル）

出口戦略を見据え
企業との連携希望があった
5団体のニーズを確認

企業連携で事業が進展する実行団体に声かけ

ニーズの言語化

当日伝えられることは
少ないので、
事業の魅力や連携可能性を
言語化・ドキュメント化

当日配布できる資料作成支援

当日フォロー・後日企業面談

★今回の事例は当日出会った両者が
元々つながりがあったこともあり、
主な支援は当日に向けた準備まで

社会課題解決における企業連携が生む可能性

企業

寄付やボランティアなどの
リソース提供



課題理解と共感をもとにした
一歩踏み込んだ団体との連携

団体

社会課題解決のための
団体の活動



社会課題解決のための
企業と団体の協働

それぞれの得意分野や役割を生かす形での
連携が進むことで、課題解決の道筋が広がる

農福連携における企業連携の可能性

企業資源を活用した応援

社内マルシェ・食堂での販売
(販路・ファンづくり)

従業員のボランティア参加
(圃場での作業やイベント手伝い、
販路開拓や広報のプロボノ)



共同活動・事業参画(地域貢献にもつながります)

社員研修としての活用

障害者雇用やDEIのヒントに！
農業×福祉の現場見学スタディツアー



★今回の事例はこちらの
発信から生まれました

地域支援型農業(CSA) への参加

